

総合的な学習の時間を中心としたグローバル人材を育成する単元構想

担当者（代表者） *関戸裕

**佐藤真 渡辺清子 遠藤真央 菅原純也 伊東晃 佐々木信幸 山本一美

*岩手大学教育学部附属小学校

（平成31年3月4日受理）

1. はじめに

岩手大学では、グローバルな視点で復興に尽力する学生を育成することを中期目標でうたっている。同じように岩手県でも、「いわてグローバル人材育成推進協議会」を設置し、岩手の豊富な資源を積極的に生かし、世界に発信するグローバルな視点を持ち、世界の平和や国際的な課題解決、自立した多文化共生社会の実現を担うことのできる人材の育成を目指している。

これらのことから、我々を取り巻く環境では「グローバル」の視点の重要性が増してきているといえる。この考えは、小さい頃からの地域を愛好する態度や世界を見据えたグローバルな思考を育てることで、大人になった際に大きく発揮されると考えられる。

そこで、本プロジェクトでは、岩手大学教育学部附属小学校において、総合的な学習の時間を中心としたカリキュラムマネジメントを通して、「グローバル人材」を育成するための単元を開発し、実践を通して成果や課題を明らかにしていきたい。

そして、以下のような「グローバル人材（子供）」を育てていきたい。

多様なローカル文化を理解し、グローバルな視点を持ちつつ、地域社会に貢献しようとする子供

例えば、グローバルについて知ったり、自分たちができる活動を考え提案したりする。そこで身につけた、グローバルの視点を基に、後期から始まる卒業研究でも継続的に個人で追究する。10月の学習旅行では、盛岡と函館を比較しながら、函館のグローバルについて追究し地域に提案していきたい。小中一貫校としての良さを発揮し、中学校でも引き続きグローバル人材としての活躍を考え自己の生き方を見つめさせたい。

2. 方法

（1）研究の方法

本プロジェクトでは、以下の2点を重点として取り組む。

- ①グローバル人材に必要な資質・能力を明らかにすること。
- ②グローバル人材を育成する単元の構想（他教科・領域と身につけさせたい資質能力でつないだカリキュラムマネジメントを行う）と授業実践。

（2）研究計画

- | | |
|-----|-----------------------------------|
| 4月 | オリエンテーション |
| 5月 | 国際交流センターの方からの講演
グローバル人材の方からの講演 |
| 6月 | 学校公開研究会（附属小）
卒業研究スタート |
| 7月 | グローバル交流会① |
| 9月 | グローバル交流会②
盛岡ガイド（外国人との交流） |
| 10月 | 学習旅行 |
| 12月 | 卒業研究発表会 |
| 2月 | グローバルセミナー 振り返り |



グローバル人材の方からお話を聞く様子

3. 結果

(1) グローカル人材に必要な資質・能力

新学習指導要領において、総合的な学習の時間では、「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。」ことを目指している。

目標の冒頭に示されている「探究的な見方・考え方」には二つの要素が含まれる。一つは各教科における見方・考え方を総合的に働かせることである。二つは、総合的な学習の時間に固有な見方・考え方を働かせることである。固有な見方・考え方とは、特定の教科等の視点だけで捉えきれない広範な事象を、多様な角度から俯瞰して捉える視点であり、課題の探究を通して自己の生き方を問い続けるという考え方である。

この考えをもとに以下の4つに整理して研究を進めてきた。

問う力	自己の考えとのずれや隔たり、また、対象へのあこがれや可能性を感じる中から、自分なりのこだわりをもち、追究を進めるための原動力を形成することができる力
追究する力	課題解決のために、適切な活動において自覚的に情報収集し、それをデータとして蓄積する力。収集した情報が正しいかどうか判断し、批判的に整理・分析し思考する力。
表現する力	相手意識や他者意識をもちながら、他者へ伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする力。伝えるための具体的な方法を身に付けたり、実際の行動を起こしたりしながら表現する力。
見つめる力	形成・確立された価値観をもとに、学んだことの意味を自分とのかかわりにおいてとらえ、自己の生き方と結び付けて考えようとする力。

(2) グローカル人材を育成する単元の構想

一年間の大単元を通した追究するテーマを次のように設定した。

『グローバル人材になろう！ ～岩手と世界をつなぎ、世界と協働できる人材～』

そして、単元を通して目指す子ども像を以下のような3点に設定した。

- 自分たちの住んでいる盛岡市や岩手県をベースとし、魅力や資源を多様な方へ発信したいという願いをもち、主体性に調べ発進しようとする姿。
- 盛岡の魅力について、多様な方々へ発信するために創造的に考えようとする姿。
- 個人追究した情報をもとに、友達と考えを合わせ、自分に取り入れたり、友達に共感したりする姿。これを、さらに具体的にすると、
 - ・世界の人々との交流する経験から学ぼうとする意欲
 - ・社会のために貢献したいという高い志
 - ・自らの志を具体化するための思考力と行動力
 - ・失敗から試行錯誤し、挑戦し続ける強い精神力
 - ・様々なことに好奇心、探究心を有し、未知の領域に対しても果敢に挑戦する姿勢
 - ・集団活動においてイニシアチブをとり、周囲を巻き込む能力
 - ・自分の考えを明確にもち、対象との比較によって課題を設定する能力
 - ・課題解決に向けて、グループで協力しながら追究することができる協調性
 - ・収集した情報について、思考ツールを用いながら整理したり、分析したりすることができる能力
 - ・収集した情報から、伝えたい項目を考え、整理したり、最も伝えたいことを意識して発表資料を作ったりすることができる能力
 - ・調べたことから、提言や広めようとする事などを考えることができる発信力
 - ・今までの自分と今の自分を比較し、自己の成長を感じるとともに、その考えをこれからの生き方に生かそうとすることができる能力

このような子供を育てるために、以下の4つの単元を構想し、年間を通して取り組むこととした。

「1. グローカル人材を知ろう！」

「グローバル人材」の意味を知り、盛岡市においてグローバルな視点で活動している人に出会い、活動について知る。自分たちのふるさとである盛岡市の魅力を広く伝えたいという視点から、「盛岡デザイン」を考え商品開発し、発信するという具体的な活動を通して、探究的な学習の過程を身に付ける。また、自分たちが調べたことをもとに、留学生の方に盛岡の街を案内し、よさや跡地利用などの問題も提案する。

「2. グローカルの視点で追究しよう！卒業研究」

前単元で学習したグローバルな視点を基に、盛岡市や岩手県における課題を見出す。個人で取り組む追究課題を設定し、探究活動を行う。地域のために自分はどういう取り組みができるのかを考え、卒業研究発表会を行い、提案する。

「3. 函館のグローバルを見つけよう！（学習旅行）」

歴史的にも外国との関わりが強い観光都市である函館において、どのようなグローバルな取り組みがあるのか探究する。また、盛岡市の魅力を、前単元で作成したオリジナル商品を活用しながら発信する活動を行う。

「4. グローカル人材になろう！グローバルセミナー」

岩手県におけるグローバルな取り組みを行なっている方から話を聞く。自己が一年間行ってきた学習を振り返りながら、小学校を卒業する段階での「未来の自分像」を思い描き表現することで、自分の生き方を考える。



グローバルについて学んだことを伝える様子

大単元の目標について

多様なローカル文化を理解し、グローバルな視点をもちつつ、地域社会に貢献する子供の育成するための目標を設定した。

岩手大学では、グローバル(グローバル×ローカル)な視点で復興に尽力する学生を育成しようと取り組んでいる。同じように岩手県でも、いわてグローバル人材育成推進協議会を設置し、岩手県の豊富な資源を積極的に生かし、世界に発信するグローバルな視点を持ち、世界の平和や国際的な課題解決、自立した多文化共生社会の実現を担うことのできる人材の育成を目指している。これらから、子供たちを取り巻く環境では「グローバル」の視点の重要性が増してきているといえる。

岩手県の豊富な資源を積極的に生かし、世界に発信するグローバルな視点を持ち、世界の平和や国際的な課題解決、自立した多文化共生社会の実現を担うことのできる人材の育成をしたり、経済のグローバル化の進展、インバウンド観光の増大、東日本大震災からの復興を契機とした国際的知見の獲得と活用、ILC（国際リニアコライダー）の実現に向けた多文化共生の地域をつくったりできる素地を養っていく。

また、地域の課題や豊富なリソースを現実的かつ創造的に見極め、課題を解決するとともに、岩手県の潜在的価値を最大限に引き出し、将来の岩手県を導くリーダー的人材を、産学官一体となって育成することを目指す。

まさに人間力（「知的」「自律」「共生」）を大きく成長させるための活動であると考えたい。また、今までの教室での学びを、実社会と結び付けて発揮しながら、リアリティのある活動を通して、生きて働く力を高めていきたい。さらに、事前・自主研・事後の活動が、それぞれ単体で進むものではないことを認識させながら、常に自己を更新させ、共に学び続けていこうとする意識を高めていきたいと考え、一年間の大きな単元として設定した。

(3) 実践について

「1. グローカル人材を知ろう！」

①単元との出会い

子供たちにとって「グローバル」という言葉は初めて聞く言葉であると予想した。「グローバル人材とはどのような人なのか。」「なぜ、グローバルな視点が必要なのか。」「グローバル人材」の意味を知り、子供たちが興味をもち、探求してみたいと思えるようにオリエンテーションを行なった。

「グローバル人材」についての一般的な捉えが分かったところで、具体的なイメージをもつためにゲストティーチャー（以下GT）を招いてお話を伺った。盛岡市においてグローバルな視点で活動している人に出会い、あこがれをもち、自分たちのふるさとである盛岡市、岩手県の魅力を広く伝えたいという思いをもたせたいと考えた。さらに、オリジナルデザイン開発という具体的な活動を通して、本單元における探求的な学習の過程を身に付けさせたいと考えた。

②GTのお話から

いわてグローバル推進委員会、岩手県国際交流協会の方をGTとしてお招きし、岩手県が取り組んでいる「グローバル人材育成プログラム」の概要についてお話しいただいた。また、トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム～「地域人材コース」の派遣留学生として台湾で海外研修を行った中村公子さんから、SNSを通して岩手の魅力を台湾に発信する体験から考えた、岩手と世界をつなぐ人材として求められる力についてお話しいただいた。

さらに、地域の魅力について、Tシャツや缶バッチなどのデザインを通して広く発信しているマルツ工房吉田つとむさんをGTとしてお招きし、現在の仕事に至るまでの経緯や、世界から見た岩手県のローカルな魅力についてお話しいただいた。



GTのマルツ工房吉田つとむさん

この学習を通して、子供たちは「グローバル人材」に求められる力として以下の4点を学んだ。

- ・自分の地域の魅力と課題を知っていること。
- ・他の地域(海外)の魅力と課題を知っていること。
- ・他の地域の習慣や文化を理解しようとする事。
- ・自らコミュニケーションを図ろうとする事。

このGTとの出会いから「グローバル人材」にあこがれをもち、自分たちも地域の魅力を発信できるような人になりたいという思いをもってほしいと考えた。

③「盛岡デザイン」の創造

子供たちは、マルツ工房吉田さんのお話をきっかけに、自分たちも盛岡市の魅力を発信できるようなオリジナルデザインを考えたいという思いをもった。そこで、盛岡市の魅力と言える資源(人・もの・こと)について、グローバルな視点から見直そうと考えた。

伝えたい地域の魅力について情報を集め、最も発信したいことを整理した。その上で、デザイン化の視点について話し合い、「外国人を含めたより多くの人に、盛岡市の魅力を一目で伝えられるデザイン」を考える活動を行った。



デザイン化の視点を整理・分析する様子

④プレゼンテーション

オリジナルデザインづくりにリアリティをもち、目的意識や相手意識を明確にするため、GTに対して自分たちが考えたデザインのプレゼンテーションを行った。盛岡市の様々な資源の中から、デザインのテーマを選んだ理由や、デザインを通して伝えたい魅力について提案した。GTからは、商品として考えたときに、一目で盛岡市らしいと分かるため

にデザインをデフォルメすることや、手に取る人にもどのように感じてほしいか、より相手意識をもって考えることの大切さをご指摘いただいた。

この経験を基に、さらにデザインを修正し、オリジナルデザインの缶バッジを完成させた。



子供たちが考えたオリジナルデザイン

⑤留学生への道案内

デザイン化を通して追究した盛岡市の魅力について、具体的な発進活動を体験することをねらいとして盛岡在住の外国人の方に紹介する活動を設定した。この活動は、英語科の学習で身に付けたコミュニケーション能力や言語能力を発揮する場にもなり、合科的なカリキュラムマネジメントとしても有効であると考えた。学習の目標は以下の通りである。

- ・外国人留学生（グローバルな人）に対し、盛岡市のローカルな魅力を伝えること。
- ・道案内をしたい場所やルート情報を整理し、英語でのコミュニケーションの方向性を決め、見通しをもって活動すること。
- ・多様な文化を理解し、外国人留学生に配慮しながら英語やジェスチャーなどを用いて円滑なコミュニケーションを図ろうとすること。

子供たちは「外国人の方に対して魅力を伝える」という相手意識と目的意識をもって道案内のルートを決めたり、伝え方を考えたりした。実際の活動では、英語と日本語、ジェスチャーを織り交ぜながら積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿が見られた。



英語で道案内のルート伝える様子

「2. グローカルの視点で追究しよう！卒業研究」

①卒業研究について

本校では、4年間の総合的な学習の時間のまとめとして「卒業研究発表会」を設定している。これまでに身に付けた探究的な学習の過程「①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現」を踏みながら、個人で追究していった。今年度は、これに「グローカルの視点」を取り入れ、グローバル人材について学んできたことを基に、地域の魅力を広く発信するという視点で課題を設定したり、地域の課題を広い視野から俯瞰して捉え、解決の方法を考えたりすることをねらいとした。

②テーマ設定について

子供の追究課題（テーマ）を設定するにあたって以下の4点を視点として示した。

- A. 県産品販路開拓人材育成プログラム
- B. ものづくり産業海外展開人材育成プログラム
- C. 交流人口拡大促進人材育成プログラム
- D. 持続可能型地域づくり産業人材育成プログラム

これは、岩手県が目指す「グローバル人材育成プログラム」と合致するものであり、この單元までに「グローバル人材」について学んできたからこそ、テーマ設定の視点として捉えられるものである。

子供たちが実際に取り組んだテーマは以下のようである。

- ・「岩手の伝統 南部鉄器のイメージ改革」
- ・「ILC って何？新しい加速機を岩手に！」
- ・「海外に発信！盛岡さんさ踊り」
- ・「釜石のワールドカップとまちづくり」
- ・「ぬけだせ！脳卒中の死亡率ワースト1」

④発表の様子

子供達は約6カ月という長い追究活動を通して自分なりにまとめたことについて、7分間のプレゼンテーションを行った。

【発表例1】

追究課題「岩手の漆の現状と未来、その魅力！」

このテーマは、「A. 県産品販路開拓人材育成プログラム」にあたる。岩手県浄法寺町の特産品である漆器につ

いて、その歴史や製造の工程について調べた。さらに担い手不足の課題や販路拡大の取組についても、生産者の方への取材を通して追究した。貴重な文化資源である浄法寺塗りを途絶えさせたくないという願い、現代社会のニーズに合った商品の開発など、自分なりの解決策を考え、発表することができた。

【発表例2】

追究課題「キャラクターで伝える岩手のいいところ！」

このテーマは、「B. ものづくり産業海外展開人材育成プログラム」にあたる。岩手県の観光PRキャラクターであるわんこ兄弟が考えられた目的や経緯、活動の様子について、県庁の方や製作者の方への取材を通して追究した。他県のPRキャラクターと比較して汎用的デザインになっており、キャラクターを増やしていくことで他地域との差別化を図れると考え、岩手の特産品をモチーフに新しいキャラクターを考え提案した。



発表会でキャラクターを提案する様子

「3. 函館のグローバルを見つけよう！（学習旅行）」

①学習旅行のねらい

本校では、6年間の学びを生かし、見学や体験を通して見聞を広め、総合的な力を育むことを目的に函館市への学習旅行を行なっている。今年度は、ねらいの一つに「グローバルな視点」を取り入れ、様々な活動を設定した。歴史的にも外国との関わりが強く、たくさんの外国人が訪れ魅力を感じる函館市において、どのようなグローバルな取り組みがあるのか追究させたいと考えた。また、盛岡市の魅力を、前単元で作成したオリジナルデザインを活用しながら発信する活動を行い、体験を通して自分たちの学びの成果を実感させたいと考えた。

②追究活動について

函館市においてどのようなグローバルな取り組みがあるのかを追究するために、以下の4つの活動を設定した。

・函館未来大学での講義

学習旅行のスタートの学習として、函館未来大学において「グローバル人材」について研究している先生に講義をしていただいた。グローバルな視点からの函館市の概要をお話いただき、子供たちの追究活動における街の見方を示していただいた。

・自主研修

4人グループでの自主研修を2回設定し、実際に函館の街を歩きながら魅力を追究した。グローバルな視点に立って歴史的建造物や交通などの街の様子を視覚的に捉え、施設の見学を通して歴史的背景を学んだ。また、研修中に出会った函館市の方や観光客の方に対して、前単元で作成した缶バッチとパンフレットを配り、盛岡市の魅力をPRする活動を行った。

・体験学習

函館市役所や市営バス、資料館や企業などで体験学習を行ない、人と関わりながら街の魅力を体験的に追究する活動を行った。子供たちは、建造物などのハード面だけではなく、それを維持したり発信したりする人の存在に気付いた。

・街づくりに関わる方の講演

函館市で実際に街づくりに携わる方から函館市のローカルな魅力と、グローバルな取り組みについてお話をいただいた。子供たちは、自主研修や体験学習で見つけた函館市の魅力についてお話の内容と比較しながら確かめることができた。

③プレゼンテーション

前単元における盛岡市の魅力をデザイン化した経験を生かし、函館市の魅力をデザイン化して伝える活動を旅行内に設定した。子供たちは、4つの追究活動を通して見つけた函館市の魅力についてグループで整理・分析し、最も伝えたい魅力は何なの

かを話し合った。函館市の観光資源を「ひと・もの・こと」で分類し、共通点を見つけながら最も伝えたいことを考えた。いくつかのモチーフを組み合わせたり、どれか一つに絞ったりしながらデザイン化し、デザインを通して伝えたい魅力について函館未来大学をお借りし、大学の先生やGTに対してプレゼンテーションを行った。



自主研修の画像を見ながら話し合う様子



大学でプレゼンテーションを行なう様子

「4. グローカル人材になろう！グローバルセミナー」

①活動のねらい

一年間を通して探究してきた「グローバル人材になろう！」のまとめとなる単元である。これまでの学習を振り返り、「グローバル人材」について学んできたことをまとめると共に、卒業する自分の今までの生活やこれからの生き方を見つめ直し、中学校への希望や意欲を醸成させたいと考えた。また、10年後、20年後の将来を見据え、「働く」ということについて現時点での考えをもたせたいと考えた。そこで、グローバルな取り組みを行なっている方からのお話を聞いたり、職業について調べたりして追究し、小学校を卒業する段階での「未来の自分像」を思い描き表現することで、自己の生き方を見つめさせたいと考え設定した。

②GTのお話から

岩手県に在住し、岩手県と世界をつなぐ仕事をされている方をGTにお招きし、「グローバルな視点と働くということ」についてお話をいただいた。

【岩手日報記者 小田野純一さん】

大谷翔平選手や菊池雄星選手など、世界で活躍する岩手県出身のアスリート取材してきた小田野さんからは、仕事のやりがいとして「自分の記事が岩手県と世界をつなぐこと」「外国人を含めた多くの人との関りによる自己の成長」などについてお話していただいた。グローバルな視点として、世界から岩手県を見たときに、地域にいただけでは気付くことのできないたくさんの魅力や資源があることをお話していただいた。

【FMXライダー 高橋仁さん】

モトクロスバイクのパフォーマーとして海外でも活躍する高橋さんからは、仕事のやりがいとして「自分の好きなことに挑戦すること」「自分のパフォーマンスでたくさんの人が喜んでくれること」などについてお話していただいた。グローバルな視点として、言語だけでなくパフォーマンスなどを通して多くの外国人とつながることができること。世界を回る度に、外国のよさと日本のよさの両方が分かることなどをお話していただいた。

子供たちは、二人の先生の生き方に共通すること何かを考え、「広い視野から物事を見ること」や「これだと思ったら挑戦すること」、「一つのことに全力を尽くすこと」などに気付いた。この学びを生かし、自分の夢や希望を実現させるために必要なことを考えた。

4. まとめ

小学校6年生という時期に、難しいとも思われる「グローバル人材」について学び、地域の魅力や自己の生き方を見つめ直したことは、子供たちにとって大変有効だったと考える。

①グローバル人材に必要な資質・能力について

【問う方】

子供たちがこれまでに知らなかった「グローカ

ル人材」と出会い、その考え方や生き方にあこがれをもつことにより、地域の魅力や資源をより広い視野から見直し、課題を見つけ、自分なりのこだわりをもって追究するための言動力を醸成できた。

【追究する力】

「グローバル人材」の方から直接お話をうかがった経験を基に、卒業研究や学習旅行でも人と関わりながら情報収集し、蓄積することができた。卒業研究では、思考ツールを用いながら情報を整理・分析し、設定した課題に対して自分なりの考えをもつことができた。

【表現する力】

これまでの学習単元に「グローバルな視点」を取り入れたことにより、ローカルな魅力や資源を、広くグローバルに伝えるという考えに立って表現することができた。デザイン化の学習では、発進する相手を強く意識して考えることを学んだ。英語科とのカリキュラムマネジメントにより、実際に外国人の方に英語で発信できたことも、子供の資質・能力を発揮させる上で有効だった。

【見つめる力】

一年間を通して「グローバル人材」と関わりながら学習を進めたことにより、「広い視野に立って物事を見る」という価値観が育った。見方・考え方が狭くなりがちな子供にとって「グローバル」に物事を考えることは、今後、自分の生き方を選択していく上でも一つの重要な視点になると考える。

②グローバル人材を育成する単元の構想と授業実践

単元構想と授業実践については前項で記述したように、一年間の大きなテーマをもちながら、各単元の目標や育てたい資質・能力を考えて実践してきた。第1単元の学習では、「グローバル人材とは、どのような人なのか。」という問いに答えられなかった子供たちも、現在では、「地域の魅力を世界に広く発信する人」「地域と世界をつなぐ人」など、自分なりの解をもって説明できるようになっている。

る。一年間という長いスパンでテーマを設定したことが有効であったと考える。

今後の課題としては、小学校段階で身に付けた資質・能力や、グローバルな視点での見方・考え方を中学校の総合的な学習の時間に接続し、ブラッシュアップしていくことであると考える。

謝辞

本研究を進めるにあたり、ご協力いただいた岩手大学学務部国際課の皆様、岩手県国際交流協会をはじめとする関係機関の皆様、本校の子供たちに感謝いたします。

また、日常の議論を通じて多くの知識や示唆を頂いた附属小学校総合的な学習の時間（わかたけ）研究部の皆様、学年の先生方に感謝します。